

平成30年度地域間交流きずな復興事業実施結果

平成30年10月2日（火）

■ 成田空港到着

ニュージーランド教員レイチェル先生とテッサ先生が成田空港に無事到着し、国際課トビー交流員が出迎えに行きました。到着時間が夕方だったため、東京に宿泊していただきました。

平成30年10月3日（水）

■ 富岡第一・第二小学校、富岡第一・第二中学校（富岡校）訪問

富岡小・中学校は2011年に発生した東日本大震災による原子力発電所の事故の影響で休校しましたが、同年9月、三春町にある工場跡地を仮設校舎とし再開しました。富岡町の一部避難指示解除に伴い、平成30年4月富岡小・中学校富岡校が再開されました。

学校訪問では富岡第一中学校山田教頭先生の挨拶を受けた後、山田教頭先生より学校を案内してもらいました。授業見学では、生徒たちが英語で自己紹介をしてくれ、その後、フリートークで生徒達と交流を図りました。ニュージーランドの教員による授業では、ニュージーランドの文化の説明を受けた後、マオリ語の歌をみんなで歌いました。生徒たちは、大変明るく元気で、レイチェル先生もテッサ先生も「家族のような雰囲気とても良い学校ですね。」とおっしゃっていました。

富岡中学校教員との懇談の時間は、お互いの国の教育方針について意見交換をした後、スカイプやメール交換などを通して、学校間で交流を図る話をしていました。



平成30年10月4日（木）

■ Jヴィレッジ視察

2011年3月に発生した東日本大震災に伴い、スポーツ施設としては全面閉鎖し、国が管理する原発事故対応拠点となっていました。2018年夏から部分的に再開。同年9月には新しい全天候型練習場の利用が始まりました。

Jヴィレッジの復興への取組みについての説明を受けた後、全天候型練習場やJヴィレッジスタジアムを見学させていただきました。先生方は芝生や全天候型練習場の温度管理方法や現在の放射線量の安全性などについて積極的に質問をされていました。



■ ふたば未来学園高校訪問

ふたば未来学園高校は、震災後第一原発事故の影響により双葉郡の高校は県内各地にサテライト校として8校に分散されていました。「双葉郡教育復興ビジョン」の一つである小中一貫校について先行して平成27年4月にふたば未来学園高校が開校され、福島県内で初めてスーパーグローバルハイスクールに認定された高校です。

学校見学でニュージーランドの先生たちは、英語の授業に参加させてもらい、生徒たちと一緒にゲームをしました。

英語教員の塩田先生からふたば未来学園について概況説明をしていただいた後、ニュージーランドの先生たちによる授業を行いました。レイチェル先生が生徒たちにニュージーランドの文化を説明し、勤務校であるリンカーン高校生徒が撮影した高校の紹介動画を視聴した後、テッサ先生がマオリ語の自己紹介を教えてくださいました。

昼食は学食で生徒達と一緒に懇談しながら昼食を食べました。その後、ふたば未来教員との懇談を行いました。懇談では、お互いの学校の教育方針や今後の学校間交流について、「メール交換で仲良くなってからスカイプで交流するのはどうか。」など意見交換を行いました。





平成30年10月5日（金）

■ 久之浜ふれあい館視察

久之浜ふれあい館は災害時の防災拠点といわき市役所の支所・公民館の町づくり活動拠点を一体化させた施設として建設された施設です。

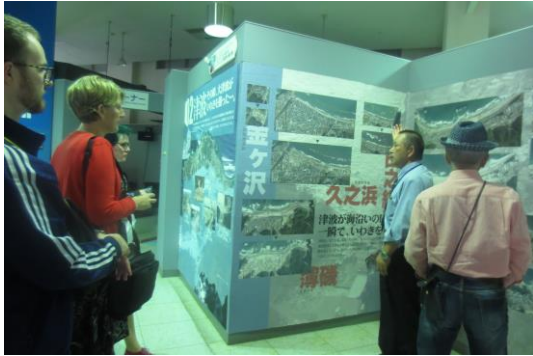
語り部の佐藤さんから、震災発生時の津波の高さについて、避難時の住民の様子や避難生活は一人に対し1畳ほどのスペースしかなかったなど、避難生活の様子、久之浜ふれあい館の防災施設としての建物の仕組みについて説明を聞きました。先生方は大変興味を持ち、当時の避難生活の様子や今後震災や津波が発生した時はどう対応するのかなど積極的に質問をしておりました。



■ いわきら・ら・ミュウ視察

いわき市の食べ物を味わえる飲食ゾーン、物産販売所、観光案内所があるいわき市の観光物産館です。2階にある「ライブいわきミュージアム」には、震災と津波の被害についての「東日本大震災展」が開催されています。

いわき市観光物産センターの方から震災発生時の様子や避難生活の様子について説明をいただきました。避難生活を再現した展示品を写真にとり、「生徒たちに伝えます。」とおっしゃっていました。



■ アクアマリンふくしま視察

アクアマリンふくしまは、福島の水の大きな特徴である太平洋の「潮目」をテーマに、様々な視点から海の不思議を解き明かす新しいタイプの海洋ミュージアムです。アクアマリンふくしまも震災による津波で甚大な被害を受けました。施設見学と共にその当時の様子や再開までの取り組みの話をアクアマリンの星さんから説明をいただきました。

「福島の子どもたちに何を伝えたいですか？」と星さんからの問いに対し、レイチェル先生は「震災の経験によって心が強くなったはずだから、自分を信じて何に対しても頑張りたい。」テッサ先生は「震災の経験があったからこそ、これから人の事を大事にできる良い大人になれると思う。」と答えていました。



平成30年10月6日（土）

■ 農業総合センター視察

農業総合センターは、技術開発機能を核に、安全・安心な農業を推進する機能、農協教育機能を兼ね備えた県農業振興の拠点です。

施設の概要やお米を200種類以上作って研究をしている話、福島県食材のモニタリング分析について、食品の放射線量を測定するに当たりミキサーを使用すると重さが出て均一に測定できないため、食品の切り分けを人の手で行っている行程についてなど説明をいただき、福島県の食の安全性を理解していただきました。

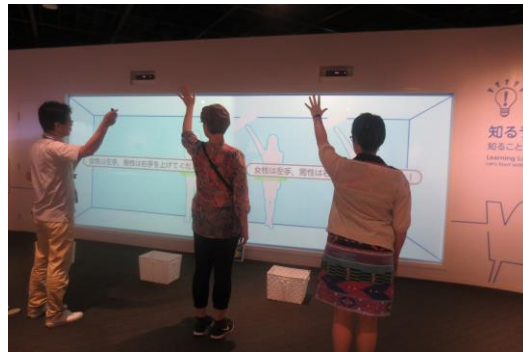


■ コミュタン福島視察

コミュタン福島（福島県環境創造センター）は放射線や環境問題を理解し、環境への回復と創造をする意識を深める施設です。

ふくしまのあゆみシアターを見た後、コミュタン福島スタッフの方が英語で施設を案内してくださいました。放射線について、放射線が及ぼす影響についてなど真剣に話を聞きいており、「ゲームを通して楽しく放射線について学べますね。」とおっしゃっていました。

また、地球の100万分の1の大きさの球体のスクリーンで、360°全方位の映像を体験できる環境創造シアターで放射能の説明や福島の美しい自然についての映像を視聴しました。大画面に映し出される福島の美しい自然にお二人は大変感動されていました。



■ 薄皮饅頭作り体験（開成柏屋）

「日本三大饅頭」のひとつと言われる福島県の名物・薄皮饅頭作り体験をしました。生地を手の中で伸ばしてあんをくるむ作業は思っていた以上に難しかったらしく、生地を破らず大きく作るのに苦戦していましたが、最後には美味しそうな饅頭を作ることが出来ました。

蒸している間は、店内奥にある「萬寿神社」を見学しました、蒸しあがったばかりの温かい饅頭を召し上がり、先生方は「とっても美味しい。」とおっしゃっていました。



平成30年10月6日（土）～10月8日（月）

■ ホームステイ

会津地区で、お二方の先生はそれぞれに分かれホームステイをしました。レイチェル先生は日本舞踊見学や、茶道体験をし、会津観光の他に日本文化も堪能したようです。「ホストファミリーでいただいた食事は大変美味しかった。」とおっしゃっていました。テッサ先生は鶴ヶ城観光や大内宿観光をし、「ホストファミリーが大変親切な方たちで、楽しい週末を過ごせた。」とおっしゃっていました。

ホームステイを終えた先生方は福島市へ戻った後、稲荷神社の秋祭りに行き、日本のお祭りを楽しんでおりました。



平成30年10月9日（月）

■ 和紙作り体験（和紙伝承館）

道の駅安達にある和紙伝承館で、和紙のはがき作り体験をしました。お二人は楽しそうに、葉っぱや花のモチーフで飾りつけをしておりました。美術の教員でもあるテッサ先生は和紙に大変興味を持っておりました。

その後、和紙の原材料でもある楮（こうぞ）の畑を案内してもらいました。



■ 安達太良山見学

安達太良山のロープウェイを使用し、福島県の美しい紅葉や自然を堪能していただきました。天気も良く、紅葉も見頃だったため、先生たちは「福島県はとても自然が美しい県ですね。」とおっしゃっていました。



■ 大七酒造見学

1752年に二本松市の安達太良山麓城下町に創業した大七酒造へ見学に行きました。最初に酒造りに関する映像を視聴した後、大七酒造の方から建物にはケヤキを使用していること、入口には狛犬がデザインされていることなど建物の説明や、かまどを二つ使用し、米を炊くというより蒸して作っているなど酒造りに関する説明を受けながら館内を案内していただきました。その後、5種類の日本酒を試飲させていただきました。先生方は「それぞれ異なる飲み口で、全て美味しい。」とおっしゃっていました。



■ 果物（ぶどう）狩り体験（まるせい果樹園）

まるせい果樹園でぶどう狩り（品種：巨峰・ピオーネ）を体験しました。ニュージーランドではぶどうはワインの原料になることが多く、サイズも小さく、味もあまり甘くないので、日本のぶどうは甘くて皮が柔らかいとおっしゃっており、お二人とも皮ごと食べていました。その後、佐藤社長から、震災発生当時は風評被害で売り上げが落ちたことや、そこからスタッフで協力し合い、J-GAPを取得したことやお客様に安心して果物が提供できるよう尽力した話を伺いました。



平成30年10月10日（水）

■ 部長・政策監挨拶（部長室）

生活環境部長・政策監へ挨拶を行いました。部長との懇談では、レイチェル先生は「この9日間で、たくさんの勉強をすることができた。日本語の先生として、生徒たちに福島の震災や復興への取り組みについて生徒たちに伝えられると思った。」と話をし、テッサ先生は「2011年の震災発生年の夏にJETプログラム参加者として北海道に勤務していた。福島県には来なかったが、来られなかった。今後、ラグビーワールドカップがあるので、日本に観光に来たいと思っている。」と話をしておりました。

懇談後、レイチェル先生はニュージーランドの置物や蜂蜜などのお土産を、テッサ先生はニュージーランドの置物やお皿などの土産をお渡しいたしました。



■ 危機管理センター見学

災害発生時に迅速に災害対策本部を立ち上げ、初動対応に万全を期すための危機管理拠点として開所した、福島県庁北庁舎にある危機管理センターを見学しました。

災害対策本部会議室にて、福島県の震災時の状況、復興への取り組み、自助・共助・公助に関するDVDを見た後、危機管理センターの災害対策について説明を受けました。



■ 報告会

国際課長、国際課中村主任主査に出席いただき、事業報告会を実施しました。

《事業全体の感想・改善点について》

○レイチェル先生

勉強だけでなく、体験や見学もできるので、この経験は素晴らしかったです。少人数での参加だったので、気軽に質問もでき、大変勉強になりました。

福島県の建物や復興した施設を自分の目で見られたことも感動しました。

今回の経験では、何度も感動して、深く考えさせられる機会が沢山ありました。自分の小ささを思い知り、これからも頑張ろうと思いました。

○テッサ先生

福島県の子ども達と会えたことが嬉しかったです。以前、JETプログラム参加者として北海道で5年間ALTをしていましたが、福島に行きたいと思っていました。また、福島県の人たちの考え方や心に、深く感動しました。9日間の事業は大変な時もありましたが、毎日感動することがあり、とても良い経験でした。強いきずなを築くことができました。

《学校訪問について》

○レイチェル先生

今回のプログラムで一番印象的だったのが、学校訪問でした。富岡中学校生徒もふたば未来学園の生徒も今まで大変なことがあったのに明るく生活していることに感動しました。

また、富岡中学校、ふたば未来学園高校では、教員との懇談の時間があり、生徒同士でメール交換と手紙交換をする約束をしました。また、スカイプを利用した交流もしたいと話し合いをしました。将来、可能であれば福島県に学生たちを修学旅行で連れてきたいです。ニュージーランドでは他の教員と話す機会があまりないため、今回、日本の教員の皆さんと懇談する時間を設けてくれて良い機会になったと思いました。ふたば未来学園でどう英語を教えているかも話をしました。日本語の授業の参考にさせていただきたいと思いました。

○テッサ先生

私も今回のプログラムで一番印象的だったのが学校訪問です。震災を経験しているからこそ、お互いを大切にしていると感じました。

また、富岡中学校は、生徒数や先生の人数は少ないですが、生徒と先生が家族のような関係を築いていると感じました。生徒たちがあまり恥ずかしがらず話しかけてくれて、大変良いことだと思った。そのような学校は珍しいと思いました。

ニュージーランドと日本の交流については、私は日本語以外にも美術も教えているので、両方のクラスとの交流が出来ます。今は、You Tube で面白い動画を作ることも出来るので、You Tube を利用して交流をしても良いと思います。

ニュージーランドの教育で一番大事にしているのが他の人たちとの繋がりを学ぶことです。ふたば未来学園でも同じことを行っていることに感動しました。

《福島現状についてどのように情報発信をしていくか》

○レイチェル先生

教育委員会宛てにレポートを書きたいです。授業で自分の経験を発表して、生徒と情報を共有したいです。カンタベリー地方の先生にも自分の経験をレポートしたいです。

○テッサ先生

先生方に今回の経験をプレゼンテーションして伝えていきたいです。社会の授業では様々な国の文化を教える項目があるので、今回得た情報を社会の先生にも伝えたいと思っています。

《県内視察等について》

○レイチェル先生

ホームステイもとても良い経験になりました。心が温かく親切なホストファミリーで、素敵な食器で福島県の美味しい食事を沢山いただきました。

今回は放射線についても勉強できました。モニタリングポストを設置して安全性を示していることや、コミュータン福島では、自分で体験しながら分かりやすく学べるところが素晴らしいと思いました。

○テッサ先生

ホームステイのホストファミリーは大変楽しくおもしろい方々で、大変貴重な経験となりました。ホストファミリーとは沢山色々な話をしました。

また、放射線について、普通の人では理解をするのは難しいと思いますが、コミュータン福島では、子どもでも分かるように学べるので大変役に立ちました。

最後に課長から、お二人のように直接、福島県を目で見ていただいた方から、福島県の魅力や正確な情報をニュージーランドの学校の生徒さんを始め、多くの方々に伝えていただき、ニュージーランドに戻ってから学校間で交流を続けていただけると嬉しいですとお伝えしました。



■ 副知事表敬（副知事室）

副知事室にて副知事を表敬訪問しました。自己紹介の後、副知事との懇談を行いました。懇談で、レイチェル先生は「福島県の復興が進んでいることに驚いた。農業に関しても復興の力を感じた。学校訪問では富岡中学校の子どもたちが仲良く生活をしていることが印象的でした。」と話をし、テッサ先生は「福島県の人々に会えたことが嬉しかった。私も富岡中学校を訪問したことが一番印象的でした。富岡中学校は家族のような雰囲気、子どもたちも元気でフレンドリーでした。」と感想を述べました。

その後、友好の証に千両ペコを贈呈しました。テッサ先生とレイチェル先生からはカヤックがモチーフの置物をお土産としてお渡ししました。



■ 最後に

地域間交流きずな復興事業は平成8年10月に本県とニュージーランド政府関係者との間で、地域間交流推進の合意がなされたことに基づき、交流事業の一環として平成10年から22年まで71名のニュージーランド教員を受け入れ地域間の交流を図っていました。震災の影響により中断していましたが平成28年より再開し、平成28年度に2名、平成29年度にも2名のニュージーランド教員を受け入れることが出来ました。

視察中、先生方は逐次写真を撮り、「ニュージーランドの生徒や先生たちにも福島県の正しい情報を伝えていきたい。」とおっしゃっていました。この事業に参加し、学校訪問や県内視察を経験し、「福島県での経験を沢山のの人に伝えます。」「素晴らしい経験だった。」「参加できて良かった。」と仰っていただき、ニュージーランドと福島県のきずながより一層深まったと実感し、大変嬉しく感じました。受入に当たり、お世話になった皆様にも深く感謝申し上げます。